

サンデンCSR報告書2016 第三者意見

研究所等を経て2003年FEM設立、環境・CSR・生物多様性・国際認証等の研究・評価・教育関連事業の他、国際的認証機関Control Unionでは、環境や社会に配慮した持続可能な国際基準を軸に、多岐にわたる認証も手掛ける。消費者庁「倫理的消費」調査研究会委員。様々な団体の理事等も兼任。

環境専門家 株式会社 FEM 代表取締役 山口 真奈美氏



「サンデンのCSRは、企業理念の実践」。2015年4月に持株会社体制へと移行され、サンデングループがこれまで築き上げてきた活動から、コンプライアンス体制の再構築を中心とした、「進化」と果敢な挑戦が随所に見受けられる報告となっています。

まず、国際的なガイドラインを参考に、CSR活動項目を「企業理念」とひも付けし、「経営における重要性」と「社会からの要請に照らした重要性」という2軸からマッピングを実施されたことは、まさに活動が進化されている表れだと言えます。「人」を尊重し、「環境」に配慮して技術の力で社会に貢献する。それは技術開発をはじめ多くの人々の知恵と努力、各国の状況を踏まえた連携体制があつてこそ実現出来るものと言えるでしょう。

本報告書では、ヒートポンプや空調システム、コンプレッサーにおける様々な開発と、サンデングループの強みである「環境」技術を活かした、環境負荷の軽減や循環型社会の形成に貢献される事例が多く紹介されています。また、4つの「Green」やサンデンフォレスト・赤城事業所の長年にわたる取り組みからも常に環境教育が徹底され、グローバル各拠点でも「環境オリジナリティ」活動を展開、さらに災害時対応自動販売機など地域や人々の支えにも直結しており、全般的に目標と実績での評価達成率も高く素晴らしいです。一方、中国、アジア地区におけるCO₂や廃棄物排出量の削減への取り組み強化は、世界全体での課題でもあり、今まで培った技術や知恵を活かし、業界を牽引しながら更なる強化を図ることを期待します。

社会性においては、STQM活動を展開し、国内はもとより世界中で地域社会とかかわりながら、学生への教育やワークキャリア開発支援、また購買業務の適正化や、取引先との関係が友好に構築されている姿が拝見出来ます。遠方拠点でもリモート参加が可能な女性フォーラムの開催及び「サンデンダイバーシティ活動宣言」や、女性活躍推進の最終目標でもある「差別なく誰もがセンスを活かして輝く会社」は、誰もが輝きながら働けるよう心の健康づくりまで配慮されている点なども伺えますので、目標と実績にて、具体的な取り組み報告に合わせた達成度も明記されると、今後の励みにもなるのではないのでしょうか。

日本は多くの原材料を海外に依存しています。紛争鉱物問題へも積極的に取り組まれています。原材料の調達からバリューチェーン全体での環境・社会的課題の抽出と取り組みの強化はSDGs（持続可能な開発目標）にも繋がります。環境・社会問題への解決には様々なアプローチがあり、トップメッセージにもあるように、「技術開発」と「社会貢献」を両輪とする戦略や、「公平性、透明性、効率性」等はグローバル企業として、まさにコーポレート・ガバナンスの強化と同時に、持続可能な社会の実現には欠かせません。「知を以て開き 和を以て豊に」という創業の精神は、国際社会の中で共感する普遍的な価値観にも通じ、すべてのステークホルダーに響くことでしょう。環境技術で人々の暮らしや産業を支えてきたサンデングループが、独自の価値創造の取り組みを展開され、更に発展されることを期待しています。

サンデンCSR報告書2016 第三者意見を受けて

今回、株式会社FEM代表取締役の山口真奈美氏より、当社グループのCSR活動に対して貴重なご示唆をいただくとともに、とりわけ、「環境」への取り組みに対し高い評価をいただき、御礼を申し上げます。当社グループの強みである環境技術に一層磨きをかけ広く社会に貢献することはもとより、2016年に設定した重点課題を軸に、当社グループならではのCSR活動を着実に進めていくことが大切であると認識しています。

また、企業に対する社会的要請は多様化の傾向にあり、当社グループがそのような変化に対応していけるよう、ステークホルダーの皆さまの声に真摯に耳を傾けながら、継続的に重点課題を検証いたします。そして社会から信頼される企業であり続けるため、社員一人ひとりのCSR活動への理解を一層深め、グローバルに活動を推進してまいります。



執行役員総務本部長
木村 明史